

# 50 回生「総合的な探究の時間」の取り組み

探究推進部 足立達彦 宮本真衣

本校では、総合的な探究の時間において、附高ゼミという探究活動を行っている。探究活動においては様々な探究スキルを必要とし、1 年次からの積み上げが大事となる。附高ゼミに向けて 50 回生がどのような展開を行ってきたのかまとめ、振り返りを報告する。

＜キーワード＞ 総合的な探究の時間 探究活動 STEAM 教育 SDGs

## 1. 50 回生の総合的な探究の時間の年次進行

表 1 に令和 4 年度・5 年度に 50 回生対象に実施したスケジュールを示す。1 年次において、探究活動に必要とされるスキルの習得を目指した取り組みを実施し、1 年次 3 学期から 2 年次 1 学期にかけて、実際に SDGs をテーマとした探究活動に取り組んだ。現在は附高ゼミを実施中であり、これまでの活動の中で見えてきた反省を踏まえ、指導方法を検討しつつ進行している。附高ゼミに向けての取り組みとその成果について報告し、反省点について共有する。

表 1. 50 回生の総合的な探究の時間 実施内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	探究基礎講座		研究室訪問			ブリタニカ STEAM				SDGs 探究		
2年	SDGs 探究					附高ゼミ(現在進行中)						

## 2. 1 年次から 2 年次 1 学期までの取り組み

探究活動には多くのスキルが必要となる。そのため、1 年次においてはスキル習得につながる展開を複数回実施し、定着を目指した。また、探究のサイクルを回し、身に着けたスキルを発揮する場を設定した。

### (1) 探究基礎講座

「わかりやすい表現」「シンキングツール」「文献調べ」「SDGs について」の 4 講座を行い、各クラスがローテーションで受講する形とした。具体例として「シンキングツール」では、探究活動において調査が進むにつれて知識量も増えていく中でどのように情報を整理するのか学んだ。また、自身の考えがまとまらない場合には整理し振り返るための重要な技法となる。どのように情報をまとめ、整理するかを説明し、実際に「自分」をキーワードにした、マインドマップの作成を行った。「SDGs について」では、SDGs とは何か、から始まり、複雑な課題は一つの分野における知識のみで解決できるものではないということを学び、社会課題への興味を持たせるための活動となった。

### (2) 研究室訪問

生徒のキャリア意識を育み、自身の興味関心を振り返るための学問探究の一環として行った。愛知教育大学の附属校であることを生かした高大連携の 1 つである。全 24 講座から自身の興味関心をもとに訪問する研究室を決定し、事前学習として愛知教育大学のホームページにある「高校生のための研究紹介」をもとに事前質問を考えさせた。実際の訪問時には、普段知ることのない専門的な学問の

面白さ、また教授の関わっている研究内容の興味深さに驚いている生徒が多くいた。事後学習では研究室訪問で学んだことを A3 用紙 4 枚にまとめ、クラス内で発表活動を実施した。

(3) ブリタニカ STEAM 教育

経済産業省「未来の教室」STEAM ライブラリー実証事業の一環で、ブリタニカジャパン株式会社の作成した STEAM 教育教材を活用して探究の流れ・協働学習・発表活動に取り組んだ。教材も多くテーマがあったが、「水素」を選択し学年全体で実施した。学習の流れは、基礎知識となるレクチャー動画（図 1）



図 1. レクチャー動画の一部

を視聴し、各回の学習内容に沿った調べ学習を個人・グループで実施、指定された方法で発表活動といった流れである。知識の収集だけでなく、ロールプレイやドキュメンタリーの作成など、発表方法やまとめ方も様々であり、多くの経験を積むことができた。

(4) SDGs 探究

SDGs を達成するための課題を見つけ、調査（文献・ネット）を通して探究活動を行うことを目的とし、自身の興味関心をもとに問いを設定し、個人探究を実施した。表 2 のような計画で 1 年次 3 学期から 2 年次 1 学期までの長期間実施した。クラス単位で実施し、担任、副担任が

表 2. SDGs 探究の実施スケジュール

1 年 次	問いの設定
	調査活動
	中間報告会
2 年 次	問いの再設定
	調査活動
	SDGs 探究発表会

指導した。調査活動では、必ず文献を引用することを求め、校内の図書館や大学附属図書館を活用して資料を集めた。発表活動では Google スライドを使用して、タブレットでの発表を実施した。

(5) ここまでの成果と反省点

探究基礎講座から SDGs 探究までの取り組みの中で、生徒の発表スキルの向上は大きな成果だといえる。ブリタニカの教材でも発表活動が多く行われ、どのようにしたら相手にわかりやすく伝わるのか、多くの情報をどのように簡潔にまとめるのか考え、表現することができるようになった。しかし、いくつかの課題もある。それを以下に示す。

1) テーマ・問いの設定

SDGs のようにテーマが事前に設定されている内容を取り上げることで、生徒にとって取り組みやすく、問いの設定も容易にできると考えていた。しかし、実際は「自分ではない他人」の課題を考えることになり、興味関心が湧かない、探究を進めるモチベーションにつながらない、といった問題点が出てきた。「自分ごと」という感覚を大事にし、テーマや問い設定の中心は、自身の興味関心であることを強調した展開をする必要がある。

2) 生徒に身につけさせたい力の明確化

総合的な探究の時間の学びの中で、生徒に身につけてほしい資質・能力を明確に決めていなかったことで、生徒が活動を通してどのように学びを調整するのか具体的にイメージできなかった。ルーブリック等を活用して、目指すべき姿を示す必要があった。

3. 附高ゼミに向けて

現在進行中の 50 回生の附高ゼミでは、これまでの反省を踏まえて自身の興味関心をもとにテーマを設定するように時間をかけて指導している。設定しているテーマとしては純粋な興味関心から立てられたものもあれば、自身の進路目標につながる内容で設定している生徒もいる。キャリア教育としての一面もあることを意識して今後の展開に役立てていきたい。